

2025. 4. 25

< 配信枚数2枚 >

報道関係者 各位

**立命館大学デザイン科学研究所×フラワー・ロボティクス株式会社
ロボティクスと芸術表現の共創による未来社会のビジョンをデザインする
共同プロジェクトを4月より開始！**

2013年にデザイン科学の拠点として立命館大学（京都市中京区、学長：仲谷善雄）が設立した「立命館大学デザイン科学研究所」（大阪府茨木市、所長：後藤智（経営学部・教授）、以下「デザイン科学研究所」）は、工業デザインを軸としたロボットの企画・開発をおこなうフラワー・ロボティクス株式会社（東京都千代田区、代表取締役：松井龍哉、以下「フラワー・ロボティクス」）と、芸術とテクノロジーの融合をテーマにした共同プロジェクトを2025年4月より開始します。

本プロジェクトでは、フラワー・ロボティクスが誇る「美的で感性に訴えるロボットデザイン」とデザイン科学研究所が蓄積してきた「人々が“豊かな生活”を実感することのできる時空間の創造」に関わる学術的知見を掛け合わせ、ロボティクスと芸術表現の共創による未来社会のビジョンを具体化することを目的としています。

フラワー・ロボティクス代表でロボットデザイナー・美術家の松井龍哉氏をデザイン科学研究所の上席研究員として迎え入れ、ロボットデザインの知見を活かした、より実践的な視点を高めた研究を追究します。

本プロジェクトを実施するにあたり、2025年4月21日にフラワー・ロボティクスと立命館大学（京都市中京区、学長：仲谷善雄）は、学術研究・教育や地域社会連携・貢献等における連携・協力に関する協定を締結いたしました。今後は、デザイン科学研究所でのプロジェクトに加えて、2026年4月開設予定のデザイン・アート学部、デザイン・アート学研究科の教育・研究にも、この連携を繋げていきます。

【芸術とテクノロジーの融合をテーマにした共同プロジェクト 概要】



立命館大学デザイン科学研究所 × フラワー・ロボティクス株式会社

(1) 美と感性を重視した共存型ロボットのビジョン創造

美と感性を重視した共存型ロボットのプロトタイプを開発し、実証実験を通じて未来社会におけるロボットと人間の共存モデルを具体化します。ロボットが人間の感性や美的価値に寄り添う存在として生活の質を向上させる可能性を提案します。これにより、感性豊かな未来社会のビジョンを創造します。

(2) 人間とロボットの共存によって生まれる新たな生活世界における芸術表現の探究

人間とロボットが共存する未来の生活世界をテーマに、共感や調和、つながりを表現する新しい芸術表現を模索します。ロボットを創造のパートナーとして活用し、人間の感性とロボットの技術が融合することで、新たな関係性や文化を創造します。この探究を通じて、生活世界における芸術の役割を再定義します。

(3) 次世代のデザインリーダー育成教育プログラムの開発と推進

人間とロボットが共存する未来の生活世界をデザインし、社会に革新的なビジョンを提示できるリーダーを育成する教育プログラムを実践します。美と感性を重視したロボットデザインと日本の伝統文化の融合をテーマに、文化的洞察力や創造力を養います。学術研究と実践を通じて、未来社会を構築するための高度な能力を育みます。

これらの取り組みを通じ、ロボティクスと芸術の共創による社会的価値の創出を目指し、人間とロボットが共存する新たな生活世界を提案します。また、美と感性を重視した視点から、未来社会における新しい文化や生活モデルの可能性を探究します。

立命館大学デザイン科学研究所について

「人々が“豊かな生活”を実感することのできる時空間の創造」を目指し、デザイン科学のアプローチで社会課題の解決に取り組む研究機関です。産業界、地域社会、行政と連携し、実社会におけるデザインの実践知を蓄積し、持続可能な社会づくりに貢献しています。

フラワー・ロボティクス株式会社について

2001年の創業から“ロボットを日常の風景にする”ことをビジョンとし、工業デザインを軸としたロボットの企画／開発／デザインをおこないます。ヒューマノイドロボット「Posy」「Palette」、自律移動型ロボット「Patin」などを自社開発する他、KDDI社のスマートフォン＋ロボット「Polaris」、大阪・関西万博シグネチャーパビリオン「いのちの未来」館等、企業や公共事業へのロボットのデザインコンサルティングを展開しています。



【松井 龍哉氏 プロフィール（フラワー・ロボティクス株式会社 CEO）】

ロボットデザイナー・美術家

日本大学芸術学部 客員教授 成安造形大学 客員教授

日本建築美術工芸協会 AACA 賞選考委員

受賞：グッドデザイン賞 ACC ブロンズ賞 iF デザイン賞（ドイツ）

red dot デザイン賞（ドイツ）

著書：「優しいロボット」大和書房（2021年）

【参考】立命館大学デザイン・アート学部、大学院デザイン・アート学研究科について※

2026年4月開設予定の新学部、研究科。歴史・文化都市「京都」に位置する衣笠キャンパスにおいて、未来志向の新たなデザイン学の追求とアートの技術・感性を基盤に自然科学と人文・社会科学領域を横断した教育・研究の展開を行います。リアルだけでなく、オンライン・オンデマンド・バーチャル空間などを利用し、多様な社会に適したより柔軟で高次元の学びの環境を整備予定です。美的感性に裏打ちされた、「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合的に身につけた、クリエイティブで柔軟な思考を涵養します。

※設置構想中（設置計画は予定であり、内容は変更となる場合があります）

以 上

本リリースの配付先：大阪科学・大学記者クラブ、文部科学記者会

●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学広報課 担当：岡本 TEL:075-813-8300 Email:r-koho@st.ritsumei.ac.jp